

2022年改訂版末梢動脈疾患ガイドラインに沿った 下肢動脈超音波検査のすゝめ

2022年改訂版末梢動脈ガイドラインによれば、超音波検査を始めとする画像検査は、間歇性跛行などの下肢症状を有する血管再建術を考慮する患者に対して実施することと記載がある。

当院では10件/週の検査枠を設けて運用していたが、この枠内だけでは他院からの紹介や緊急患者に対応することが困難であり、追加枠として検査を行っていたため検査件数が増加傾向にあった。下肢動脈超音波検査は1時間前後の検査時間を要するため、大きな負担となっていた。

そこで、循環器内科および院内委員会と協力し、医局会にてガイドラインに沿った検査依頼の徹底を依頼した。これにより治療に直結する検査の割合は周知する前では53%であったが、周知後は62%に増加し、検査の精度向上に繋がった。今後もさらに診療科と連携を継続的に行い、治療を必要とする患者に早急に対応できるように努める。